

2008(平成20)年度

第6回光ディスク懇談会プログラム

日 時 : 平成21年3月13日(金) 13:00~17:00

場 所 : 機械振興会館 研修-2室 (B3階) 〒105-0011 東京都港区芝公園 3-5-8
電話:03-3434-8216

テーマ : 将来技術/市場動向

幹 事 : 吉田 秀実 (三菱化学メディア) / 川田 善正 (静岡大学)

時間	演 題	講 師・会 社・所 属
13:00 13:35	1. 光ディスク市場の急変と将来動向 Sudden change of Optical disk market and future trend	松本 郁夫(マツモト イクオ) 坂田 恵美子(サカタ エミコ) ふじわらロスチャイルドリミテッド
	昨年来からの、光ディスクを始めとするストレージ市場の急激な変化の動向を示しながら、光ディスクの将来に対する見方の変化状況を解説する。その直近の状況を踏まえた上で、光ディスクの将来動向に対してマクロな分析を加える。	
13:35 14:10	2. 医療と光ディスク A storage solution for medical	今中 良一(イナカ リョウイチ) パナソニックメディカルソリューションズ(株) 顧問
	医療画像保管の技術環境と市場について、病院のシステムを例にとり、説明する。その後グリーンIT化の要求をどのように実現していくかを考える。	
14:10 14:45	3. ストレージ革新技術とともに実現する保存効率化 Storing More Efficiently with storage Innovation	雨堤 政昭(アマツツミ マサアキ) EMCジャパン株式会社 マーケティング本部 プロダクトマーケティング部
	経済危機状況下において、増え続ける情報をいかに効率的に保存していくかという課題を解決について、ストレージ・システムの最新技術とともに紹介する。	
14:45 15:15	* * * コーヒー ブレイク * * *	
15:15 15:50	4. SILを用いた2層リライタブル光ディスクの記録再生 Rewritable dual-layer recording for near-field coupled SIL system	尾留川 正博(ビルクワ マサヒロ) パナソニック株式会社
	SIL用2層REメディアを試作し、記録/再生/消去を確認した。今回は、カバー層、中間層の屈折率は1.5であるため、容量は135 GB程度であるが、近接場を利用したSILで2層記録が可能であることを検証した結果は、今後の大容量化に期待を持たせるものである。	
15:50 16:25	5. 有機ホウ素ポリマーを用いた二光子吸収型光メモリ Organoboron-based optical memory with two-photon absorption recording and batch readout processing	藤田 静雄(フジタ シズオ) 京都大学 大学院 工学研究科
	有機ホウ素ポリマーへの二光子吸収による屈折率変化を利用した書き込みを行い、複数の書き込み点を一括再生する手法で読出しを行う光メモリシステムについて紹介し、特性を述べる。あわせて多層光メモリへの展開について展望する。	
16:10 17:00	6. 高機能超短パルスファイバレーザの進展 Advance of highly functional ultrashort pulse fiber laser	西澤 典彦 (ニシザワ ノリヒコ) 大阪大学 大学院 工学研究科
	ファイバレーザはメンテナンスフリーで安定・コンパクトな実用的な光源であり、注目を集めている。本講演では、超短パルスを出力するファイバレーザの最近の進展と、特殊な光ファイバとの組み合わせで実現される様々な高機能なファイバレーザの展開について紹介する。	